平成25年1月21日発行　茅野高同窓会報　第56号

茅野高同窓会報

第56号
平成25年1月21日
発行
茅野高等学校同窓会
発行人　原田年子
編集人　伊藤清隆
印刷　(株)サラト

地域と共に歩んだ七十周年

同窓会長　原田　年子

同窓会員の皆様はそれぞれのお立場で益々ご健勝の事と、お慶び申し上げます。この度創立七十周年記念事業の式典及び祝賀会を九月二十九日に盛大に執り行う事ができました。同窓会、学校、PTA、地域の企業の皆様のお力添えを心からお礼申し上げます。永明家政女学校創立より七十年という歴史を刻む事ができ、卒業生も一万八千余名となり、多くの方が多方面で活躍されており、今回の式典・祝賀会では、現在活躍されている方に参加していただき、出席された皆様から感動していただき、大変うれしく思っております。これからも、全国で活躍される事を期待しております。式典には、在校生も参加し協力をしていただきました。

創立70周年記念に思う

校長　矢島富士雄

平素から同窓会の皆様には、母校の教育の振興と在校生の激励のため、多大なご支援を賜り厚くお礼申し上げます。同窓会に対しましては、在校生の精神的依存度が大きく、無言の感化を受けるものであります。卒業生の社会的な活躍はもちろんのこと、同窓相互の親睦を図りながら、後輩が学ぶ母校の支援体制作りにご尽力いただけることは、教職員一同の心からの願いであります。

去る9月29日、創立七十周年記念式典及び祝賀会を同窓会、PTAの皆様のご協力のもと多くの方々の参加を得て盛大に無事終えることができました。特に茅野市長柳平千代一様そして長野県教育委員委員長で前市長の矢崎和広様も祝賀会に出席されご光彩を添えていただきました。あらためて本校に寄せられる期待の大きさをひしひしと感じている次第です。

70周年事業開催については1年間という極めて短い準備期間でありましたが、原田会長様をはじめとして同窓会の皆様には公私共に大変ご多忙の中、寄付金集め等、精力的に準備を進めていただきました。あらためてそのご労苦に対しまして心より敬意と感謝を申し上げます。

記念事業として学校収蔵絵画の修理やマイクロバスを寄贈していただきました。マイクロバスにつきましては年度当初4月からご準備いただき、総合的な学習の時間、学校行事そして部活動と有効に活用させていただいております。永く大切に使わせていただきたいと思います。

地域に根ざし、地域とともに歩んできた70年の歴史を振り返ることができました。「温故知新」、今後80周年、さらには100周年に向けて母校のために何を築いていくのか、また、母校で学ぶ後輩たちにどんな遺産を残していかなければならないのか、本校にゆかりを持つすべての方々がじっくりと考えてなければならないと思います。70周年という一区切りがその契機となることを期待しております。

在校生には70周年から感じ取ってもらいたいことがあります。それは真の遺産とは、本校で学ぶ一人ひとりの者が、校舎の隅々までに滲み込まれてきた逞しく、真摯な生き様であり、卒業生にとって母校は「心のふるさと」であるということであります。この「ふるさと」を大切にし、大切に思うことは自分自身も大切にすることにつながるものであると思います。

同窓会の盛会は、私達在校する者たちにとって、大きな励ましと勇気付けになります。同窓生の皆様が、本校の卒業生であることを心から誇りに思えるような学校づくりに誠心誠意努力して参る所存であります。今後ともより一層のご支援をお願い申し上げます。

百周年を目指して

渋谷　博光

私は教諭で二年、校長として五年の計七年間茅野高校にお世話になりました。

赴任時の三年生で、生徒会長・五味康剛君やバスケ部の矢崎孝君をはじめ何人もの人たちと現在も親交があります。また、戸塚監督率いる野球部に憧れを抱いた私は異動先の学校でなんと野球部の監督を務めることになりました。お陰様で現在の私は掛替えのない財産・宝物を数えきれないほど抱えております。

ところで、ある本で『人財』という言葉を目にしました。「人財」とは財産となる人で、「君の代わりはいないよ」と言ってもらえる人とのことです。

「人財」になるためには、「当たり前のこと」をきっちりこなして、「至誠」を貫くことが大事である。そういうことこそが「人として大切なこと」である。「至誠」とは、普段やらなければいけないことを、真剣に本気で、誠意をもってやることだ。当たり前の中でも、「挨拶」「掃除」「素直」の三つが大事だ。とありました。

標題の「百周年」はともかくとしても、当面の八十周年に向けて為すべきは、これまで先輩各位が築いてこられた確固たる伝統の上に立ち、その実践・足跡に倣い「人財」の輩出を図っていくことだと考えます。

「当たり前のこと」「人として大切なこと」をキチッとやって、人間的に成長して、「人財」と言われる人になる。地域に愛される学校づくりを一層進める。という教育活動に、惜しみない応援・支援をしていくことだと考えます。

創立七〇周年をステップに、さらなる進化・発展を

東京支部長　長田　正友

天も祝福してくれているような記念式典日和。式典会場では原田実行委員長、矢島学校長があたたかく迎えてくださいました。会場扉では生徒が笑顔で案内をしてくれました。ホームカミングデーのようでした。

式典では、母校発展へのおもい・志が伝わってくるスピーチを拝聴しました。実行委員長式辞、学校長あいさつ、PTA会長あいさつ、来賓祝辞、生徒代表のあいさつと続きました。それぞれの方が自分の立場で母校の現在・過去・未来を語っておられました。母校発展へのおもい・決意を新たにする式典となりました。

記念公演は、卒業生を交えての吹奏楽部の演奏、そして今後、ますます活躍が期待される卒業生ミュージシャンの演奏・トークに母校で学んだ高校時代の日々、石楠花祭、山浦一周マラソン大会、東北への修学旅行等が懐かしく蘇ってきました。

未来へ繋がる母校発展へのおもいを式典参加者一同が共有する七〇周年記念式典でありました。

また、式典では、同窓会東京支部旗を贈呈していただきましたので東京での同窓会の折には、ふるさと・母校におもいを馳せ、同窓生のつながり・ネットワークをさらに結びのあるものにしていきます。

七〇周年という節目を確かなステップとし、一層地域に開かれ、地域に溶け込み、地域に支えられ、個性輝く生徒が誇りと自信をもって、地域社会に貢献する〈地域と共に歩む〉学校の創造・発展を心から祈念いたします。

記念式典へ出席して

明臥（S35入学）

茅野高等学校創立七十周年記念事業の事に些かではありますが、拘りをもつことになったのは、寄付金集めの打ち合わせの通知をもらった時からでした。七月某日寄付のお願いに、吉田さんと回りましたところ、殆どの方より快く寄付を戴くことができました。感謝です。私たちがまわった組内は四十数軒であります。そのうち二十数名あまりの方が、茅野高等学校（永明の名の時も含み）を卒業した方であったことは、此のことをやって知る所となりました。

茅野市民会館での記念式典は、厳かな雰囲気の中で行われ、またそれに続き行われた公演等、全体の構成（手づくり、派手さは無いけれど）・進行（在校生が関わっていること）などが、招待者の皆様に大変なる好評を得たところではなかったでしょうか。

式の後の公演も美事であったと思います。二人の卒業生が出演したことは、在校生も身近に感じ一体感を持って楽しんだ様子でした。太鼓を演奏してくれた彼の語りの中の言葉が印象に残っています。それは「この学校に学んでよかった」と、短い言葉ではありますが、この様に言ってくれる生徒が多ければ先生方にとって嬉しいことだと思います。学校の名前があがらなくとも生徒が「あの学校に学んでよかった」と言ってくれるような学校もよいのではないでしょうか。此の事業を進行するに当たり原田会長の大きな尽力とスタッフの協力により盛大かつ成功のうちに成し遂げることができたと思います。共にお悦びします。

※原田会長の当日の和服姿は見事でした、美事な着こなし素敵でございました。始まりが家政学校であった事を鑑みれば何とも歴史の繋がりを感じる所です！

祝 創立70周年記念

平成24年9月29日

地域と共に歩む母校

茅野　秋男

地域の熱望と期待を担って建学された茅野高等学校が創立七十周年の記念事業を契機に、永年培われた歴史と伝統を継承し地域に根ざし「地域と共に歩む一高校として更なる発展に全校挙げて取り組む決意を新たにした。同窓の一人として感激も一入であり、喜びに耐えません。改めて建学以来温かいご理解とご支援いただいた市当局など多くの関係の皆様に敬意と感謝を申し上げます。

顧みるに母校は永明高等家政女学校として開校、村立から組合立、県立に移管、定時制の併設・統廃合・閉校など時代の変遷と幾多の試練に遭遇しつつ先人の英知と忍耐で克服、今日を迎えた。この間三十三年の歩みと記念碑の建立、五十周年での石楠花会館の建築、七十周年での花蒔分校記念碑の建立と同窓会旗の製作やマイクロバスの贈呈など名実ともに母校の礎と教育機能も遂次整備充実し同窓生も一万八千余名に達し、地域を中心に各界の分野で活躍し建学の期待に応えつつあり心強い限りです。

向学に燃え定時制に学び恩師学友との出会いを回顧し、母校への思いを新たにしている昨今です。私達は生きる力を求め、地域を担わんとここに学ぶこの真髄を噛み締め、八十年そして百周年へと限りない母校の発展と同窓会活動への参加を通じ相互の親睦と交流と連帯の絆を強め活力ある地域づくりへの期待に応え日々真摯な営に精進しようではありませんか！

七十周年事業

同窓会副会長・記念事業実行委員会事務局長　小松　久利

長びく厳しい経済不況、毎日の生活もが大変の中、同窓生の皆様に記念事業への寄付をお願いし母校の為にと御寄付いただきました事厚くお礼申し上げます。

五十周年では同窓会館の建設等大変大きな事業を実施していただき、六十周年では会員名簿の発行と周年事業を行ってまいりました。七十周年では百周年に向けて、母校の教育環境整備のための事業としてマイクロバスの配備、学校所蔵絵画の修復、同窓会会員相互の交流を深めるための事業として同窓会本部及び東京支部の同窓会旗の製作、記念式典、祝賀会の実施等を行いました。

創立70周年記念事業寄付のお礼

伊藤　清隆

我が茅野高校が本年創立70周年を迎えるにあたり学校、PTA、同窓会で記念事業実行委員会を組織し、記念事業成功に向け皆さんにご理解ご協力をお願いしたところ、この厳しい経済状況の中にも関わらず多くの方から早速に寄付をいただき誠にありがとうございました。

お陰さまで、マイクロバス寄贈、絵画の修復を始めとした母校への支援を始めとして9月29日には多くの参列者をお迎えしての記念式典を成功裏に行うことができました。

ここで、途中ではありますが、10月現在で926万円余の寄付をいただきました。

改めて寄付いただいた方々、企業、事業所の方々に感謝申し上げます。

なお、5,000円以上寄付をいただいた方には、校章・校歌入りの染め抜きの手ぬぐいをお送りいたしましたのでお納めください。

また、5万円以上いただいた方々には、別に記念品（現在作成中）をお送りする予定ですが、もうしばらくお時間をいただきたくお願いいたします。

今回、創立70周年記念事業実行委員会を急遽立ち上げ、事業を進めていますが、行き届かない点等多くあったかと思いますが、ご理解をお願いいたします。また、寄付は、平成25年2月までお受けしておりますので、まだこれから寄付いただける方は次の金融機関までお願いいたします。

できれば、創立50周年時に同窓会館に配備した会議用テーブルの買い替え等に充てられればありがたいと思う次第であります。ぜひご協力をお願いいたします。

追伸

創立70周年記念事業の様子は、茅野高等学校同窓会のホームページでご覧いただけます。

茅野高創立70周年記念事業への寄付はまだ間に合います！

現在までに多くの方々から寄付をいただき誠にありがとうございました。

残念ながらまだ、目標額に達しておりません。もう寄付は遅かったとお思いの方、まだ間に合います。ぜひご協力をお願いいたします。

平成25年2月まで受け付けております。下記、何れかの金融機関まで振り込んでいただければ幸いです。

★郵貯銀行
口座番号　00590-5-97865
名　　義　茅野高等学校70周年記念事業会

★長野銀行　茅野支店　店番号　162
普通預金　口座番号　8504137
名　　義　茅野高等学校創立70周年
実行委員会代表　原田年子

事務局からの重要なお知らせとお願い

★会費の納入について

日頃より同窓会の運営にご協力いただき感謝いたします。

特に今年度は茅野高校創立七十周年記念事業実行委員会に対しても多くの方々から寄付をいただいたところであり重ねて感謝いたします。

ご承知のとおり同窓会の運営は会費により運営されているところであります。

会費の主な支出は、母校在校生に対する援助と会報に関わる経費が大部分を占めております。今母校は高校改革という流れの中で茅野高校のあり方、方向性を問われています。同窓会では母校に対しどのように支援するのか問われる時期でもあります。同窓会の活動のためにも会費の納入にご協力お願いします。

なお、会費は三年に一回二千円を納めていただいており、今年度はその最終の年に当たりますので、現在までお納めいただけなかった方には会費納付書を同封いたしましたので、お手数でもお近くの郵便局で、お振込みくださいますよう重ねてお願いいたします。

★会報に投稿のお願い

次回発行の同窓会報に会員の皆様方の投稿による作品発表の欄を設けたいと思います。つきましては、次のとおり作品を募集しますので会報充実のためご協力ください。

記

◎締切り
平成二十五年七月末日

◎送り先
茅野高校同窓会事務局

◎内容
短歌・詩等何でも可

◎その他
構成段階で登載できない場合もありますのでご承知ください。

投稿はご自身の作品をお願いします。

投稿の際には氏名、連絡先を必ず入れてください。

投稿の原稿はお返しできないのでお含みおきください。

以上お願いします。